

負の連鎖：マイノリティで所得が低い↓家庭環境が悪化↓授業レベルの低下↓卒業率の低下↓職業が限定される。それは子どもの発達や健康問題にまで影響している。プラスの連鎖：親が高所得↓保育園（2歳）からの英才教育が可能↓レベルが高い小中学校や大学受験校への進学↓名門大学入学↓高所得の職業に就ける。これはアメリカの実態として示された記述である。著者は、負の連鎖を「アメリカの教育をめぐる闇」とまで言う。

ニューヨークの保育園の保育料は年間96万円から331万円、1世帯あたり平均年収の約3分の1にあたり、貧困家庭の年収を上回る水準だといふ。大学ランキング上位の私立校を見ると、授業料だけで500万円を超えている。それらに寮費や教科書代等が加わるとその額は中間所得層の年収に匹敵する。多くの家庭にとって学生ローンを利用しないで賄える金額ではない。わ



「教育超格差大国」アメリカ

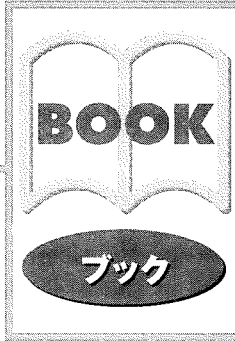
津山恵子 著
821円 扶桑社新書
☎03-6368-8888

額でもない。わが国でも貸与型奨学金の返済に苦しむ実態が、昨今よく聞かれる。それでも高学歴を得たいと子は思い、親は自分の学歴を超えて安定した生活をつかんでほしいと願う。

アメリカでは経済格差の陰に人間格差があり、それが教育格差に直結しているという。その教育格差が貧困格差につながっているのだ。わが国でも格差は、じわじわと広がっている。子どもの貧困率は先進國中4番目に高く、6人に1人が貧困といわれている。教育格差の問題から目を離すことはできない。

「すべての子どもに平等の教育を」と締めくくる著者は、ニューヨークを拠点にして活動するジャーナリストである。

（元川崎市立中学校校長・青木幸夫）



「英語力の向上は日本の将来にとって極めて重要である」とことから、次期学習指導要領についての報道では「英語」が最も注目を浴びている。

本書は、第一部「英語は基礎力」発音、語彙、コンテキスト、文法」、第二部では「英語の学習法」訳す、スキル、試験、デジタル、そして映画」、第三部では「英語の実践」語学研修、留学、仕事」の3部で構成されている。

どの章も著者の英語学習の経験と英語教育における様々な理論や調査を元にして「英語を効果的に学ぶ方法」について、一般的な学習者向けに書かれている。

例えば、「発音」の学習では、「英語の音の基本（母音と子音、強弱のリズム）を知る」ことが大切であることを「母音があいうえお」の5音素である日本語と20音素もある英語を比較し、日本語にない音を発音する時に



本物の英語力

鳥飼玖美子 著
864円 講談社現代新書
☎0120-29-9625

「英語力の向」は日本の将来にとって極めて重要である」とことから、次期学習指導要領についての報道では「英語」が最も注目を浴びている。

本書は、第一部「英語は基礎力」発音、語彙、コンテキスト、文法」、第二部では「英語の学習法」訳す、スキル、試験、デジタル、そして映画」、第三部では「英語の実践」語学研修、留学、仕事」の3部で構成されている。

どの章も著者の英語学習の経験と英語教育における様々な理論や調査を元にして「英語を効果的に学ぶ方法」について、一般的な学習者向けに書かれている。

例えば、「発音」の学習では、「英語の音の基本（母音と子音、強弱のリズム）を知る」ことが大切であることを「母音があいうえお」の5音素である日本語と20音素もある英語を比較し、日本語にない音を発音する時に

は大きさに聞こえるくらいに発音すること」、「強弱リズム重視では「シヤンパン」を「シヤンペイン」と発音すると通じる」といったように、言語学的理論に基づいた具体的な学習方法についてわかりやすく説明されている。一方、英語を使用するようになるためには、語彙学習が必要不可欠であり、その習得方法として自習では「多読が効果的である」と、「速読」「多読」「精読」の解説をした上で、学習者がより多くの英語にふれることを勧めている。

「英語を学ぶ意義」として、「英文法は英語という言語文化のルールなので、その規則を知ることが異文化理解につながる。」と言及され、「英語を学ぶこと＝異文化との格闘」であるので、きちんと学ぶことは大切ですが、間違いを恐れず、「コミュニケーション」という試合に出場しよう」の言葉は、英語に対する苦手意識の高い読者にとっても著者からのエールを感じる。

（愛知教育大学教授・高橋美由紀）